



# 連合駿台会報

No.334 平成29年7月15日発行  
 発行・編集 連合駿台会  
 発行人 広報委員長・齋藤柳光  
 編集人 事務局・矢嶋まゆ子  
 〒101-0052千代田区神田小川町三十一・二  
 明治大学「紫紺館」内  
 電話(〇三)三二九六一四七四七  
 印刷 有限会社 美創

## 第六十三回連合駿台会総会を開催

第六十三回連合駿台会の通常総会が、平成二十九年五月十九日、明治大学「紫紺館」三階会議室で開催されました。

開会に先立ち、先年度亡くなられた結城康郎氏に黙祷が捧げられた後、田村駿会長は開会を宣言し、規約の第五章・第十三条に従い、会長が議長となり、議案の審議が進行されました。

なお、第一号議案・第二号議案は関連性の高いものなので、両議案の説明後に、質問を一括で受け、そして決議に入りたいとの提案が議長からあり、異議なく承認され、審議に入りました。

### ○第一号議案

平成二十八年度事業報告書、収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表・財産目録の報告、ならびに監事による監査報告承認の件

▽平成二十八年度の事業報告(①例会・総会、②理事会、③その他(特別行事(ビジネス勉強会、正副会長会・オープンゴルフコンペ・新入会員歓迎会・歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」観劇と懇親会・運営委員会・各委員会)、④会報発行、⑤会員状況)について、上西絃治専務理事から報告があった。会員数については、新入会員は二十八名だったが、退会会員が昨年より十五名増の三十二名(故人一名を含む)となったため、昨年度末と比べると四名減少して三百三十一名となった。

▽平成二十八年度の収支計算書・正味財産増減計算書・貸借対照表・財産目録については、坂田英夫財務委員長より以下の報告・説明があった。

・「収支計算書」については、「収入の部」では、当期収入総額は1743万8083円(予算額1802万円・対予算比九六・八%)で、内訳は年会費収入1409万3676円(予算額1475万円・対予

算比九五・六%)、例会費収入251万円(予算額245万円・対予算比一〇二・四%)、広告費収入83万円(予算額80万円・対予算比一〇三・八%)等である。

・「支出の部」では、総務費関係は576万7977円(予算額527万円・対予算比一〇九・四%)となっており、備品消耗品費(対予算比プラス四六・八%)、印刷費(対予算比プラス三一・八%)が予算よりかなりオーバーした。事業費の各委員会運営費では、一番大きな予算を組む総務・事業委員会費が695万2206円(予算額630万円・対予算比一一〇・四%)で、約一割増だったほかは、すべて予算未達で、五委員会の総額では1224万3804円で、予算額1239万円に対する比率は九八・八%で、約十五万円の黒字だった。その他慶弔費も合わせ、当期支出合計は1804万1781円となり、当期収支差額はマイナス60万3698円となった。赤字になった要因としては、いま述べた総務費二科目と総務・事業委員会費が予算オーバーしたほか、年会費収入が65万円ほど少なかったことがあげられる。これを受けて次期繰越収支差額は4119万8064円となった。

・「正味財産増減計算書」については、一般正味財産増減の部に当期収支差額分が加わ

り、これに有志正味財産（創立時のメンバー等からの寄付）1800万円を加えた5919万8064円が正味財産期末残高になり、約6000万円が当会の正味財産と理解していただければいいかと思う。

「貸借対照表」では、借方「資産の部」が小口現金・みずほ銀行普通預金・ゆうちょ銀行普通預金・みずほ銀行定期預金・MMF・電話加入権を合計した額で、合計額は5921万5414円で貸方「負債・正味財産の部」の額と一致している。資金運用という意味では検討する余地もあるが、会の性格上、預金という形で財産を残しておくことがベストかと思われる。

▽監査報告（野口昌宏監事）

これらについて、規約第六章・第十八条の規定に基づき、五月十五日付けで野口昌宏監事・二宮充子監事が監査をした結果、会務の執行は当会の規約に従い、総会並びに理事会の決議に基づき誠実に執行されており、一般会計はいずれも適正に処理されており、計算書類は本会の収支及び財産の状況を正しく示しているものと認められた。

○第二号議案

各委員会平成二十八年事業報告および平成二十九年事業計画（案）・活動予算

（案）、並びに収支予算（案）承認の件

▽平成二十九年度の連合駿台会活動基本方針に関しては、昨年度と同様の方針を踏襲して進めたいという報告があった（上西専務理事）。

\*

▽総務・事業委員会 河村博委員長

〈平成二十八年事業報告〉

- ① 例会六回（含む総会・駿台懇話会）、理事会五回、正・副会長会一回、運営委員会八回、総務・事業委員会二回をそれぞれ開催した。
- ② 新規会員の定着・懇親のための事業（ピジネス勉強会二回、新入会員歓迎会）を開催した。
- ③ 会員相互の親睦会（歌舞伎観劇&食事会、オープンゴルフコンペ二回）を開催した。

▽組織・会員増強委員会 高澤徹委員長

〈平成二十八年事業報告〉

- ① 委員会の開催  
六回開催し、入会の実施と理事会上程持ち回り理事会（二回）等、速やかな承認手続きの遂行をした。
- ② 会員増強活動の推進  
入会者：目標二十名  
〈実質〉新規入会者（二十八名）、入会承認者（八名） 計三十六名  
〈内訳〉新社長・役員リスト 十三名  
会員ご紹介 二十三名
- ③ 会員の例会出席率の向上策の検討と実施  
総務・事業委員会と連携して新入会員歓迎会を開催した。

〈平成二十九年事業計画・活動予算（案）〉

- ① 平成二十九年度年間計画に基づき、前年に引き続き事業を円滑に進める。
- ② 新規会員の定着・懇親のための事業（ピジネス勉強会・グルメ交流会〈六月十六日開催・本年度からの新しい事業〉・新入会員歓迎会）を開催する。
- ③ 会員相互の親睦会（バス旅行〈十月二十八日開催予定〉・オープンゴルフコンペ）を開催する。
- ① 委員会の開催  
年六回を目安に入会審査の実施と速やかな承認の手続きの遂行を行う。
- ② 会員増強活動の推進  
新社長・役員リスト等による活動と会員によるご紹介を一層強化する。  
会員ご紹介による入会希望者の例会同伴の場合は、同伴者費用を一回無料として、委員会が負担する。
- ③ 会員の例会出席率の向上策の検討と実施

【活動予算】 635万円

【活動予算】 20万円

## ▽広報委員会 斎藤柳光委員長

## 〈平成二十八年度事業報告〉

- ① 会報（第三二七号～三三二号）を定期刊行して、会員相互の情報を共有して会の運営を円滑化し、広報委員が編集後記等記事制作に協力して、紙面の充実化を図った。

- ② 会のホームページ（HP）の更新は、従来に倍する月二回以上として、事後の報告事項から事前のイベント告知までを取り込み、会報情報のスピードを補完した。

- ③ 入会案内用パンフレットを五年ぶりに全面的に刷新し、三千部制作した。

- ④ 新年号（第三三一号）年賀名刺広告は、「会報への資金援助」の理解のもと協力を得た。

## 〈平成二十九年度事業計画・活動予算（案）〉

- ① HPの全面的リニューアルとサーバー補強を行い、情報のスピードアップとともに、会合、関連イベントなどの事前の情報提供や、新入会員の紹介やニュース、寄稿などの新コーナーを設け、会員向けに各委員会の事業報告等にも活用する。

- ② 連絡通信に限って許諾いただいた会員のメールアドレスを、テスト的に活用していく。

- ③ 会の存在を学内外のあらゆる機会を通じてアピールすることにより、入会者の勧誘等につなげて会の活性化を図る。そのためのリーフレット制作も検討する。

- ④ 会報紙制作費を補助する年賀名刺広告の意図を広報して、より積極的な理解を得る。

## 【活動予算】 270万円

## ▽大学支援委員会 浅井宏委員長

## 〈平成二十八年度事業報告〉

- ① 学術賞・学術奨励賞は一月十八日の駿台懇話会にて授与。学術賞一名、奨励賞二名で、いずれも若手女性専任講師が受賞。

- ② 連合駿台会寄付講座をグローバルフロント・ホールにて、春期・秋期を実施。

- ・春期（六月一日）三輪美恵氏（株アトレ常務取締役・成長戦略室長）  
・秋期（十月十八日）上田利昭氏（株チュチュアンナ代表取締役社長）

- ③ フューチャースキル養成講座を商学部・経営学部にて開講。会員協賛企業七社の協力をいただき好評にて終了。学内での評価も高まっている。

- ④ 交換留学生（二百六名）の春期・秋期修了式に田村会長に出席いただき、記念品を授与。

- ⑤ ホームカミングデー、お茶の水JAZZ祭、シエイクスピアプロジェクト協賛。

## 〈平成二十九年度事業計画・活動予算（案）〉

- ① 学術賞・奨励賞は研究知財事務室と応募数をさらに増やすべく対応。

- ② 連合駿台会寄付講座は、春期・秋期実施予定。

- ・春期（六月二十日）西澤豊氏（株時事通信社相談役）

- ・秋期未定（十一月初旬を予定し、講演候補者選定中）

- ③ フューチャースキル講座の講座枠拡大は難しいため、前年同様、商学部・経営学部にて七講座を協賛七企業の協力を得て開講予定。優秀な研究成果を出した学生に対し表彰制度を新設して実施する予定でいる。

- ④ 交換留学生支援は、春期・秋期修了式については、前年度の反省点を反映して、予算額を三十万円に減額して記念品を授与する予定。

- ⑤ ホームカミングデー、お茶の水JAZZ祭、シエイクスピアプロジェクトの協賛。予算額は前年度の実績に合わせて十万円を減額。④と⑤の減額分で、③

## 【活動予算】 335万円

の新制度を実施予定。

▽財務委員会 坂田英夫委員長

〈平成二十八年事業報告〉

① 当年度中の新規入会者数は目標を越えて二十八名となったが、退会者数が三十二名となつて、四名の純減となった。

② 会費未納者数は、三百二十八名中二十三名で、会費未納率は七・〇%となり、平成二十七年末の七・四%と比較して、〇・四ポイント下がった(平成二十六年末は七・七%、同二十五年末は六・二%)。今後も未納率を下げしていくよう努力する。

③ 当期収支差額は、当初予算16万円に対し、マイナス76万3千6百98円となった。理由等については先ほどの報告の通り。

④ 〈平成二十九年三月三十一日現在〉

☆会費納入見込み会員数：三百二十八名  
一般：二百七十三名 地方：五十五名  
☆会費納入者数：三百十三名(会費を納入して退会した人を含む)  
一般：二百六十二名 地方：五十一名

〈平成二十九年事業計画・活動予算(案)〉

① 年会費収入、例会費収入、広告費収入等の収入額に対応した支出の予算管理の徹底を図り、財産基盤が損なわれないうよう、収支差額予算を達成する。  
② 当会資産の運用、活用方法について協議し、使途などを提案する。

③ 当会の改革のあり方、大学支援制度の確立に向けての提案をする。

【活動予算】 10万円

【平成二十九年収支予算(案)】

① 収入の部では、年会費収入は昨年度の納入実績に合わせ、新入会員入金金分も三十名とし、144.5万円とした。例会費収入は五回を百名、一回を九十名と見込んでいる。広告費収入と雑収入は、ともに昨年実績に基づいて想定した結果、当期収入合計は183.1万円とした。当会の性格上、収入の確保は絶対であるので、これを確実化し、収支差額をプラスに転じるようにしたいと思う

② 支出の部では、総務費は昨年と同じ527万円の予算とした。事業費は先ほど各委員長から計上された数字の合計に、従来通りの慶弔費を加えた128.0万円、予備費を10万円として、収支差額は14万円となっている。

▽これら報告について、以下の質疑応答があった。

・「活動基本方針」の【各種事業の実施】の項で、「相互に交換」とあるが、通俗的に考えると、「相互に交歓」のほうがより適

切でしっくりするのではないか？

↓これに関しては、検討させていただきたいと思う。(田村会長)

第一号議案・第二号議案については、満場一致で可決・承認された。

第三号議案

その他

▽大学への寄付金に関し、明治大学・大学支援事務室の國原氏から、「明大カード」と「本棚募金」の説明を受け、寄付金等に関する理解を深めた。

以上

上記議事録は、適切に記録されているものと認める。

議事録署名人 鈴木 紘一  
議事録署名人 高澤 徹



## 平成28年度 連合駿台会 収支計算書

自:平成28年4月1日

至:平成29年3月31日

(単位:円)

収入の部				実績摘要 (収入の部)
勘定科目	予算額	実績	予算比	
年会費収入	14,750,000	14,093,676	95.6%	(一般)262名、(地方)51名(新入会員入金金)28名×@30,000=840,000円
例会費収入	2,450,000	2,510,000	102.4%	例会-5回(予算100名×4回⇒平均106.5名×@5,000円)+(予算90名⇒76名×@5,000円)⇒2,510,000円
広告費収入	800,000	830,000	103.8%	名刺広告代 @10,000円×61件 @30,000円×4件
雑収入	20,000	4,407	22.0%	預金利息/MMF利息など
当期収入計	18,020,000	17,438,083	96.8%	
前期繰越収支差額	41,801,762	41,801,762	100.0%	
<b>当期収入合計</b>	<b>59,821,762</b>	<b>59,239,845</b>	<b>99.0%</b>	
支出の部				実績摘要 (支出の部)
勘定科目	予算額	決算額	予算比	
<b>I. 総務費</b>				
(1) 家賃共益費	620,000	618,000	99.7%	紫紺館事務所家賃
(2) 人件費	2,200,000	2,203,000	100.1%	事務局関連業務委託費及び会報発行業務費
(3) 事務通信費	1,000,000	1,096,197	109.6%	電話代(約140,000円)/例会資料等発送費(約700,000円)/振込手数料ほか(270,000円)
(4) 備品消耗品	400,000	587,024	146.8%	文具代・PC関連費ほか(約350,000円)/発送用封筒・会員ネーム札作成代ほか(約150,000円)/名刺代(約90,000円)
(5) 印刷費	650,000	863,082	132.8%	事務局コピー機リース代・更新代/(約345,000円)/コピー用紙代ほか(約515,000円)
(6) 雑費	400,000	400,674	100.2%	事務局交通費(約370,000円)/資料代ほか(約30,000円)
<b>総務費計(I)</b>	<b>5,270,000</b>	<b>5,767,977</b>	<b>109.4%</b>	
<b>II. 事業費</b>				
<b>1.各委員会運営費</b>				
(1) 総務・事業委員会費	6,300,000	6,952,206	110.4%	例会費・忘年会費・講師謝礼等(約5,000,000円)/運営委員会・新入会員歓迎会・正副会長会費(約720,000円)/名簿代(約380,000円)/各種事業費・委員会費・諸経費等(約950,000円)
(2) 組織・会員増強委員会費	300,000	123,100	41.0%	委員会費(123,100円)
(3) 広報委員会費	2,340,000	2,170,600	92.8%	会報発行費(1,780,000円)/入会案内パンフレットリニューアル費(324,000円)/委員会費(56,600円)
(4) 大学支援委員会費	3,350,000	2,955,898	88.2%	学術賞・奨励賞賞金+副賞ほか(約1,320,000円)/寄付講座、ほか経費(約730,000円)/留学生支援(約380,000円)・本学行事協賛金(450,000円)/委員会費(70,000円)
(5) 財務委員会費	100,000	42,000	42.0%	委員会費(42,000円)
各委員会運営費計	12,390,000	12,243,804	98.8%	
<b>2.その他事業費</b>				
(1) 慶弔費	100,000	30,000	30.0%	
その他事業費計	100,000	30,000	30.0%	
<b>事業費計(II)</b>	<b>12,490,000</b>	<b>12,273,804</b>	<b>98.3%</b>	
<b>III. 予備費 (III)</b>	<b>100,000</b>			
当期支出合計(I+II+III)	17,860,000	18,041,781	101.0%	
当期収支差額	160,000	△ 603,698		
次期繰越収支差額	41,961,762	41,198,064	98.2%	

## 平成28年度 連合駿台会 正味財産増減計算書

自:平成28年4月1日

至:平成29年3月31日

(単位:円)

科 目	金 額
I 一般正味財産増減の部 (当期一般正味財産増減額)	
当期収支差額	△603,698
一般正味財産期首残高	41,801,762
一般正味財産期末残高	41,198,064
II 有志正味財産増減の部	
当期有志正味財産増減額	0
有志正味財産期首残高	18,000,000
有志正味財産期末残高	18,000,000
III 正味財産期末残高	59,198,064

## 平成28年度 連合駿台会 貸借対照表

平成29年3月31日現在

(単位:円)

資産の部		負債・正味財産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(流動資産)</b>	<b>59,205,114</b>	<b>(流動負債)</b>	<b>17,350</b>
小口現金	90,073	源泉預り金	17,350
みずほ銀行・普通預金	3,055,596		
ゆうちょ銀行・普通預金	5,595,575	<b>(正味財産)</b>	<b>59,198,064</b>
みずほ銀行・定期預金	38,000,000	1. 有志寄付金	18,000,000
M. M. F.	12,463,870	2. 次期繰越収支差額	41,198,064
<b>(固定資産)</b>	<b>10,300</b>	(うち 当期正味財産増加額)	(△603,698)
電話加入権	10,300		
<b>資産合計</b>	<b>59,215,414</b>	<b>負債・正味財産合計</b>	<b>59,215,414</b>

## 平成28年度 連合駿台会 財産目録

平成29年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
<b>1. 資産の部</b>			
(1) 流動資産			
小口現金	90,073		
みずほ銀行・普通預金	3,055,596		
ゆうちょ銀行・普通預金	5,595,575		
みずほ銀行・定期預金	38,000,000		
M. M. F.	12,463,870		
流動資産合計		59,205,114	
(2) 固定資産			
電話加入権	10,300		
固定資産合計		10,300	
<b>資 産 合 計</b>			<b>59,215,414</b>
<b>2. 負債の部</b>			
(1) 負債の部			
源泉預り金	17,350		
流動負債合計		17,350	
<b>負 債 合 計</b>			<b>17,350</b>
<b>正 味 財 産</b>			<b>59,198,064</b>

## 平成29年度 例会日程予定表

年	月日	開始時刻	会場	講師	備考
平成29 (2017)	7月19日(水)	17:45	明治大学 「紫紺館」	田中角栄元総理秘書 朝賀 昭 氏	暑気払い
	9月20日(水)	17:45	明治大学 「紫紺館」	元日本銀行総裁 福井 俊彦 氏	
	11月15日(水)	17:45	明治大学 「紫紺館」	未定	忘年会
平成30 (2018)	1月中旬~下旬	17:30	明治大学 詳しい会場は未定	学術賞受賞者 記念講演	駿台懇話会
	3月14日(水)	17:45	明治大学 「紫紺館」	未定	
	5月18日(金)	18:00	明治大学 「紫紺館」	講演なし	総会

※例会の開始時間にご注意ください。また、3月例会は、「第2水曜日」となりました。

※総務・事業委員会主催で、平成29年4月5日に「第8回ビジネス勉強会」、4月12日には「第11回オープンゴルフコンペ」、6月16日には「第1回グルメ交流会」を実施。

※ほか、「第9回ビジネス勉強会」(10月中旬頃)、バス旅行(10月28日)、「第12回オープンゴルフコンペ」(11月7日)、新入会員歓迎会(2月頃)の開催を予定。

※駿台懇話会の日時・会場については未定、それ以外の会場はとりあえず「紫紺館」を予定しているが、変更になる場合もあり。

## 平成29年度 連合駿台会 活動基本方針

「より多くの明大の卒業生が、他大学にはない特別の愛校心を抱けるよう、オール明治の団結と絆を深めるためのリーダー的役割を果たす」

### 1

#### 【各種事業の実施】

会員の知識を広く深め、相互に交換し、会員の社会的地位の向上と社会への貢献を図るため、講演会・セミナーの開催、ボランティア活動等社会貢献の実施、親睦会の開催等、各種事業を実施する。

### 2

#### 【大学の発展への寄与と連携強化】

大学の教育と学術研究の発展に寄与するため、学術奨励表彰を行うと共に、学生の講演会への招待・啓蒙および国際人養成支援等を実施する。また大学がすすめる知的資産の運用やビジネスインターンシップ制度、グローバル化推進に連携して取り組む。さらに、新しい視点での大学支援を検討し、適宜大学への提言を行う。

### 3

#### 【ネットワークの構築】

校友関係組織の中で、本会を名実ともに存在感のある会として発展させるため、幅広いネットワークの構築に努める。

### 4

#### 【幅広い世代による運営】

会員増強を一層強力に進め、特に若年会員の勧誘にも力を入れ、会員年齢構成をバランスのとれたものにし、企業交流を通じて会の活性化を図る。

## 平成29年度 連合駿台会 収支予算

自:平成29年4月1日

至:平成30年3月31日

(単位:円)

収入の部		摘要(収入の部)
勘定科目	予算額	
年会費収入	14,450,000	* (一般) 260名 × @50,000円 = 13,000,000円、(地方) 55名 × @10,000 = 550,000円 (新入会員入会金) 30名 × @30,000 = 900,000
例会費収入	2,950,000	* (夜例会) 6回 …(100名 × 5回 × @5,000) + (90名 × 1回 × @5,000) = 2,950,000円
広告費収入	900,000	
雑収入	10,000	* 預金利息/MMF利息
当期収入計	18,310,000	
前期繰越収支差額	41,198,064	
<b>当期収入合計</b>	<b>59,508,064</b>	
支出の部		摘要(支出の部)
勘定科目	金額	
<b>I. 総務費</b>		
(1) 家賃共益費	620,000	* 紫紺館事務所家賃
(2) 人件費	2,200,000	* 事務局関連業務委託費及び会報発行業務費
(3) 事務・通信費	1,000,000	* 電話代/例会資料等発送費/振込手数料 他
(4) 備品消耗品	400,000	* 発送用封筒代/文具代/会員ネーム札作成代 他
(5) 印刷費	650,000	* 事務局コピー機リース代/コピー用紙代 他
(6) 雑費	400,000	* 事務局交通費/資料代 他
<b>総務費計(I)</b>	<b>5,270,000</b>	
<b>II. 事業費</b>		
1. 各委員会運営費		
(1) 総務・事業委員会費	6,350,000	例会費・講師等謝礼(4,500,000円)/正・副会長費、運営委員会費(600,000円)/名簿発行費(400,000円)/各種事業費(700,000円)/諸経費(150,000円)
(2) 組織・会員増強委員会費	200,000	新入会員定着活動費(150,000円)/会員増強活動費(50,000円)
(3) 広報委員会費	2,700,000	会報発行費(1,740,000円)/HPの更新・管理・維持費(360,000円)/HP企画リニューアル&サーバー補強費(500,000円)/委員会費(100,000円)
(4) 大学支援委員会費	3,350,000	学術賞・奨励賞賞金+副賞ほか(1,500,000円)/寄付講座およびその他経費(750,000円)/フューチャースキル関連費(300,000円)/留学生支援費(300,000円)/大学行事協賛金(450,000円)/委員会費(50,000円)
(5) 財務委員会費	100,000	委員会費(100,000円)
各委員会運営費計	12,700,000	
2. その他事業費		
(1) 慶弔費	100,000	
その他事業費計	100,000	
<b>事業費計(II)</b>	<b>12,800,000</b>	
<b>III. 予備費 (III)</b>	<b>100,000</b>	
<b>当期支出合計(I+II+III)</b>	<b>18,170,000</b>	
<b>当期収支差額</b>	<b>140,000</b>	
次期繰越収支差額	41,338,064	

◆新入会員ご紹介

前回までの理事会で承認され、入会された方をご紹介します。(敬称略・当着順)



金子 光男  
昭和四十二年・政経学部卒  
学校法人明治大学・監事  
埼玉県春日部市在住



薄井 健二  
昭和五十九年・商学部卒  
アメリカンファミリー生命保険会社  
執行役員  
東京都立川市在住



今泉 英彦  
昭和五十八年・商学部卒  
(株)ワコール  
取締役常務執行役員・小売事業本部長  
京都府京都市在住



小嶋 修司  
昭和六十二年・商学部卒  
(株)みずほフィナンシャルグループ  
執行役常務  
東京都江戸川区在住



樽見 俊之  
昭和五十六年・商学部卒  
(株)日立ハイテクノロジーズ  
理事・営業戦略本部長  
東京都世田谷区在住



内川 雄一郎  
昭和五十四年・経営学部卒  
飛鳥建設(株)  
首都圏建築支店 執行役員・副支店長  
東京都国分寺市在住



中正 雄一  
平成七年・政経学部卒  
(株)グローバルグループ  
代表取締役  
東京都中央区在住



河合 陽一郎  
昭和六十二年・工学部卒  
(株)山下設計  
執行役員・企画本部副本部長  
東京都武蔵野市在住



村山 芳史  
昭和五十七年・商学部卒  
アメリカンファミリー生命保険会社  
常務執行役員  
東京都世田谷区在住



長谷川 俊也  
昭和六十二年・政経学部卒  
野村證券(株)・執行役員  
東京都世田谷区在住



浦川 竜哉  
平成十四年・グローバルシステム研究科修  
大和ハウス工業(株)  
取締役常務執行役員・建築事業担当  
東京都新宿区在住

◆明大ニュース

●一学期で一人あたり最大三百万円

「海外トップユニバーシティ留学奨励助成金」

明治大学はこのたび、世界トップクラスの大学への留学を促進し、本学の教育・研究の高度化およびグローバル化に資することを目的に、「明治大学学生海外トップユニバーシティ留学奨励助成金」制度を新設した。

対象は、本学の協定校で世界屈指の大学である米国・スタンフォード大学、ペンシルベニア大学などへ留学する学生。一学期で一人あたり最大三百万円を支給し、授業料や寮費、渡航費といった留学費用の経済的負担の軽減につなげる。二〇一七年度～二〇二〇年度までの四年間を第一期として、各年度五千万円、総額二億円を助成する計画である。

助成金は「留学奨励助成金S」と「留学奨励助成金A」の二種類で、「留学奨励助成金S」では、スタンフォード大学のInternational Honors Program (IHP)などへ参加する者に対して、三百万円を上限として助成(採用人数は約五人)。一方の「留

学奨励助成金A」では、カリフォルニア大学（UCバークレー）、UCLA、UCデービス、UCアーバイン）のサマーセッション、ペンシルベニア大学のGlobal Citizen Study Abroad Program（GCPA）などへの参加者を対象に、最大百万円を約三十五人に助成する枠を設けた。

明治大学は二〇一四年に選定された文部科学省の「スーパーグローバル大学創成支援」事業の構想において、二〇二三年度には単位取得を伴う海外留学経験者数を年間四千人に到達させるとともに、毎年の卒業生八千人を「未来開拓力に優れた人材」として育成することを目標に掲げている。海外留学には、一定の派遣基準（語学能力や学業成績）のみならず、経済的な裏付けも必要である。留学経費の負担増は、留学を断念する大きな要因にもなっており、今回の助成金新設を契機に、海外留学の促進をさらに加速させる。

### ●評議員四人を補欠選任

学校法人明治大学寄附行為第二十条および学校法人明治大学評議員選任規則第十三条の規定に基づき、五月二十四日付で四人が補欠選任され、評議員に就任した。

四人の内訳は、寄附行為第十七条第二項第二号に定める教職員一人、第三号に定める校友三人（敬称略・五十音順・年齢は就任

時）。

有賀 隆治

一九六五年経営学部卒・七十六歳

元凸版印刷(株)常務取締役

砂田 利一

一九七二年東京工業大理学部卒・六十八歳

総合数理学部教授

畠中 君代

一九六七年文学部卒・七十三歳

(株)ビッグKテニス代表取締役

堀越 孝

一九七八年法学部卒・六十二歳

堀越法律事務所所長、弁護士

### ●スケート界に尽力

校友・鈴木恵一氏に

「明治大学特別功労賞」を贈呈

明治大学は六月二十一日、明大スケート部監督で日本スケート連盟特任相談役の鈴木恵一氏（一九六六年・政経学部卒）に対し、「明治大学特別功労賞」を贈呈した。

これは、同氏がスピードスケート競技者として一九七二年札幌冬季五輪選手団主将および選手宣誓をはじめ五輪出場三回、世界記録樹立三回など輝かしい功績を挙げるとともに、明大スケート部や日本代表監督など指導者としても多数のグローバル人材を輩出してきたことが、本学の名声を高めることに貢献

したと認められたもの。贈呈式は、駿河台キャンパス・リバティタワー二十三階の岸本辰雄ホールで挙行され、大学役員・役職者、体育会監督・コーチら多数関係者が見守る中、土屋恵一郎学長から鈴木氏へ、賞状と記念メダルが授与された。

土屋学長は祝辞として「鈴木監督の大きな功績は、明治大学はもろろん日本全体の荣誉。これからも強いチーム、アスリートの育成に尽力いただきたい」とあいさつ。柳谷孝理事長は、「五輪憲章は『スポーツを文化と教育と融合させる』とうたっており、鈴木監督はそれを体現されている。今後も日本そして世界のスケート界のために活躍を」と激励した。

受賞のあいさつに立った鈴木氏は、関係者へ謝辞を述べるとともに、「『負けるのではないか』という恐怖心を打ち消すために、日々厳しい練習を続け、気持ちの上で常にハングリー精神を持ってきた」と、明大在学中から世界と戦い、ライバルたちと競ってきたエピソードを紹介。また、指導者として、「自分が勝つためのトレーニングをしなさいと選手には言っている。二位ではダメ、金メダルでないと意味がない」と、これまでの経験を伝えながら強い信念を持って後進の育成に励んでいる現状を踏まえ、「今後もスケート界をリードしていきたい」と意気込みを

語った。

### 【明治大学特別功労賞】

明治大学の学生、教職員、校友（OB・OG）らの中で、学術・文化・スポーツなどの分野において顕著な功績を挙げ、明治大学の教育・研究の振興・発展に寄与したと認められる個人や団体に対し贈られる。これまでに阿久悠氏や星野仙一氏、北野武氏らに贈呈。鈴木氏は三十一人目の受賞者となった。

### ●二〇一六年度私立大学等経常費補助金

明大は約四十三億円、全国八位

日本私立学校振興・共済事業団は、二〇一六年度の私立大学等（大学・短期大学・高等専門学校）に対する「私立大学等経常費補助金」の交付状況を発表した。明治大学への交付額は42億9930万5000円となり、六年連続で四十億を超え、順位は全国八位だった（昨年十位）。

私立大学等経常費補助金は、①私立大学等の教育研究条件の維持向上、②学生の修学上の経済的負担の軽減、③私立大学等の経営の健全性向上に資するため、日本私立学校振興・共済事業団が国から補助金の交付を受け、これを財源として全額、学校法人に対して設置学校の経常的経費について補助するものである。この補助金には、各学校における教職員数や学生数等に所定の単価を乗じて得

た基準額を教育研究条件の状況に応じて傾斜配分する「一般補助」と、教育・研究に関する特色ある取り組みに応じて配分する「特別補助」がある。

二〇一六年度の経常費補助金の交付状況を見ると、交付学校数は八百七十七校、交付総額は3211億6333万7000円であり、内訳では一般補助2701億3600万円、特別補助510億2733万7000円となっている。このうち私立大学には、2968億8039万5000円が交付されている。交付額を大学一校当たりで換算すると5億2084万3000円で、学生一人当たり15万6000円（国立大は約218万円）となる。二〇一六年度は、教育の質的転換、地域発展、産業界・他大学との連携、グローバル化といった改革に全学的に取り組む大学に対する支援を強化するため、経常費・設備費・施設費を一体として重点的に支援する「私立大学等改革総合支援事業」として、四百五十七校に対し増額配分（一般補助および特別補助の内数）が行われた。

明治大学への交付額の42億9930万5000円のうち、一般補助は35億8327万1000円、特別補助は7億1603万4000円であった。

国から経常費補助金として財政支援を受けている大学は、社会の要請に応えるべく、

教育・研究体制を構築していかなければならない。本学においても、グローバル社会で活躍できる人材の育成、研究成果の発信等による地域・社会との連携を中心に、緩みなく改革に取り組み、さらなる補助金の獲得を目指し積極的な展開を図っていく。

### ●司法試験（短答式試験）

明大は百三十七人合格、全国六位

法務省は六月八日、二〇一七年司法試験のうち短答式試験（憲法・民法・刑法、五月二十一日実施）の結果を発表した。明治大学法科大学院の合格者数は百三十七人で、法科大学院別では全国六位。合格率は五三・三%だった。総受験者数五千九百六十七人のうち、合格に必要な成績を得た者は三千九百三十七人。合格率は六六・〇%、合格者の平均年齢は三十二歳だった。論文式試験（五月十七、十八、二十日実施）の成績も加えた最終合格者の発表は、九月十二日に行われる。

司法試験の受験資格は、法科大学院の課程修了、または予備試験の合格により得られる。受験期間は、受験資格取得日後の最初の四月一日から五年間。

### ●OB社長

▽兼松 谷川薫氏（一九八一年工学部卒・五十八歳）

▽島根銀行Ⅱ鈴木良夫氏（一九七六年商学部卒・六十三歳）

▽クリエアナブキⅡ上口裕司氏（一九八三年経営学部卒・五十八歳）

▽とちぎテレビⅡ黒内和男氏（一九七八年経営学部卒・六十三歳）

▽コミュニティネットワークセンターⅡ高原昌宏氏（一九八〇年政経学部卒・六十三歳）

### ●連合駿台会寄付講座

#### 「世界の目、日本の目」

～記者四十三年、何を見たか～

リバティアカデミーは六月二十日、連合駿台会寄付講座「『世界の目、日本の目』」記者四十三年、何を見たか」を駿河台キャンパス・アカデミーホールで開催。講師は連合駿台会の副会長で明治大学評議員の西澤豊氏（株時事通信社相談役・一九七四年政経学部卒）。ソウル特派員、政治部次長などを歴任し記者生活四十三年の中で見た日本の政治、日本そして世界の動向から見るメディアの将来について鋭く迫る内容で、六百人を超える来場者が聞き入った。

西澤氏はまず、日本の政治の現在地として、戦後の歴代首相・政権を振り返りながら、自社五五年体制スタート（一九五五年）、冷戦終結と昭和天皇崩御（一九八九年）、自

民党結成六十年と戦後七十年（二〇一五年）といった転換点を軸に、その舞台裏を解説。今後の課題として、人口減少対策、財政再

建、環境エネルギー、人工知能（AI）への対応などを挙げ、「こうした問題にどう対応していくか。自民党政権が続いているが、野党である民進党も政策論議を深めてほしい」と日本の将来を見据え、持論を展開した。

また、慰安婦問題、北朝鮮の核ミサイル問題に揺れる朝鮮半島との関係については、「憎悪のスパイラルは好ましくない。感情だけではなく、理性に訴える対応、日韓友好の大切さを伝える息の長い対応をすべき。日本にはそれができる」と、未来志向の重要性を訴えた。

さらに、メディアの現状については「新聞は情報の主食、ネットは嗜好品。ネットは情報の偏食になる」と前置きした上で、トランプ大統領の誕生やイギリスのEU離脱などネット情報が大きな流れを生み社会に影響を与えた点について言及。これからは、情報を見分けるバランス感覚や、全体を俯瞰し、部分を見分け、流れを把握する力（鳥の目、虫の目、魚の目）など情報リテラシーの必要性を紹介した上で、「相反する二つの意見を包含するような幅の広い視点」を「檜田の理論」が大切。我々メディアに身を置く者はこれからも信用できる情報を提供していきたい」と締

めくった。

### ●土屋学長がグテレス国連事務総長を表敬

#### 難民問題など明大の取り組みを報告

土屋恵一郎学長は五月一日、小林正美副学長（総合政策担当）、針谷敏夫農学部部長らとともにニューヨークにある国連本部を訪れ、明治大学名誉博士のアントニオ・グテレス国連事務総長を表敬した。

会談の中で土屋学長は、改めて今年一月の国連事務総長就任に対し、祝意を表すとともに、世界平和への貢献に向けた期待や、本学が実施する難民を対象とした入学試験の現状、国連難民映画祭をはじめ難民問題をテーマに行う本学のさまざまな取り組みについて報告。グテレス国連事務総長と積極的な意見交換を行った。

今回の訪問を記念して、明治大学から公式キャラクター「めいじろう」のぬいぐるみとともに、臨済宗相国寺派の管長で金閣寺、銀閣寺の住職でもある有馬頼底氏が「知足（足るを知る）」と書した掛け軸を贈呈。土屋学長はこの意味に触れながら、「平和な世界を構築するためには、我々一人ひとりも、世界の国々もこの気持ち（知足）を持つことが必要」と述べ、今後も国際機関と連携しながら国際社会に貢献することを誓った。

明治大学は二〇一四年十一月、ポルトガ

ル首相や国連難民高等弁務官などを歴任したグテーレス国連事務総長の社会的実績や世界平和に向けた人道的課題解決への多大なる貢献を高く評価し、名誉博士学位（第三十一号）を贈呈している。

### 「UNHCR難民高等教育プログラム特別入学試験」を実施

明治大学は、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）及び国連UNHCR協会との協定に基づき、難民を対象とした入学試験を実施している。学部生として高等教育の機会を提供することにより、当該学生が高い教養と専門性を身につけ、国際社会において平和の構築や社会の発展に寄与することを目的としている。二〇一一年度から実施し、これまでに十三人の学生が明治大学に入学している。

### ●「ジャパン・ハウスサンパウロ」に

マンガ二百冊を寄贈

#### 「グールジャパン」発信の一助に

明治大学は、外務省が戦略的に「オールジャパン」を発信するための拠点としてブラジルに設置した「ジャパン・ハウスサンパウロ（JAPAN HOUSE Sao Paulo = JHSP）」に、マンガ二百冊を寄贈した。これは、ブラジルとの文化交流をさらに促進し、本学の教育・研究の振興と国際連携の推進に資す

ることが目的。寄贈したマンガは「明治大学が選ぶ『現代日本マンガアンソロジー』」としてマンガの多様性を示すことをコンセプトに、米沢嘉博記念図書館の蔵書から選書されたもの。JHSP入口奥のマルチメディアスペースに展示され、誰でも閲覧できるようになっている。

JHSPの一般公開前日となった五月五日の記者発表では、土屋恵一郎学長からのビデオメッセージが紹介され、小林正美副学長（総合政策担当）が現地のテレビ局や新聞社から取材を受けるなど、大いに注目された。今後は、マンガを通じたワークショップや討論会、プレゼンテーションなどの各種イベントを通して、教育・研究活動を実施していく予定。また、JHSP以外にも、ブラジル国内の協定校（サンパウロ大学、FAP大学、リオブランコ大学）、ブラジル日本文化福祉協会および日伯文化連盟へもマンガを寄贈するための準備を進めている。

本学はこれまでも、北京大学にマンガを寄贈するなど、マンガを通じて国際的な文化・学術交流を実施してきた。また近年、海外協定校との学生交流を中心にラテンアメリカ地域での活動を拡大しており、こうした取り組みを契機として、日本文化・日本語を継続的に発信し、日本への造詣を深め、将来日本との懸け橋となりうる人材の輩出に繋げて

いく。

### ●商学部

#### 在メキシコ日本大使を招き特別授業

#### 「日本・メキシコ関係からトランプ政権まで」

商学部・所康弘准教授は六月十六日、「貿易論A」の一環として、在メキシコ日本国大使館の山田彰特命全権大使を招いた特別授業を、駿河台キャンパスで開催した。現役大使の話の間近で聞けるとあって、受講者に加え研究者や大学院生、新聞記者らが訪れ、関心の高さを伺わせた。

特別授業のテーマは「前進する日本・メキシコ関係―政治・経済から文化・スポーツまで」。山田大使は、日本とメキシコが歴史的友好国であることに触れながら、近年の日本企業のメキシコ進出を背景とした両国関係について解説。在レオン日本総領事館の設置、日本経済新聞メキシコ支局の開設、全日空のメキシコ市―成田間直行便の新規就航や、文化・学術交流、国際場裏におけるさまざまな分野での協力体制など、戦略的グローバル・パートナーである日本とメキシコの関係性について、「皆さんの知らないところで急速に深化している」と述べた。

トランプ政権の誕生によって動向が注目されるアメリカとの関係については、「最大の外交問題」とした上で、「アメリカとメキ

シコの経済関係は一体化している。良好な関係を築けずにいることは両国にとっても大打撃」と、通商政策や移民・国境政策、マクロ経済での影響など、それぞれの視点から説明した。

また講演の中では、マンガやアニメなど日本のポップカルチャーについて造詣が深い山田大使が、さまざまな形で日本文化を発信していることを披露するなど、幅広い大使としての外交の仕事についても紹介された。

講演後の質疑応答では、学生から意欲的な質問が多数寄せられた。今後のメキシコとアメリカの関係について尋ねられた山田大使は、「メキシコの潜在能力は高い。他国の動向に左右されず、中長期的にしっかりと政策を進めることが両国にとって大切」と、先行きが不透明な中でも堅実に政策を実行していくことの重要性を説いた。

### ● 駐日クロアチア大使が表敬訪問

#### 連携について懇談

明治大学は六月二十六日、クロアチア共和国のドラジェン・フラステイチ駐日大使の訪問を受け、土屋恵一郎学長、大六野耕作副学長（国際交流担当）が、駿河台キャンパス・リバティタワー二十三階の貴賓室で意見交換を行った。

フラステイチ大使は、五月に本学を会

場に実施された「欧州留学フェア」への謝辞を述べるとともに、クロアチアの産業をはじめ国内の大学の専門分野や強みなどを紹介。中央ヨーロッパ最大の港湾都市であるクロアチアのリエカ市と川崎市が今年、姉妹都市提携四十周年の節目の年を迎えることから、川崎市にもキャンパスをもつ明治大学との大学間協定の締結に向けて意気込みを見せた。

土屋学長は、今回の訪問を歓迎するとともに「明治大学は学部を要し、各分野の第一線で活躍する研究者も多い。クロアチアの大学と協定を締結し、関連が深い分野で個々にプロジェクトを進めていければ」と述べ、農学や生命科学、アニメーション分野での連携をはじめ、積極的に学生・研究交流を推進し、協力体制を構築していく考えを示した。

### ● 端艇部

#### 全日本軽量級選手権で二種目優勝

ボート競技の第三十九回全日本軽量級選手権大会が五月二十六日～二十八日の三日間、戸田ボートコース（埼玉県・戸田市）で行われ、体育会端艇部が「女子舵手なしクォドルプル」と「男子エイト」の二種目で優勝した。

「女子舵手なしクォドルプル」には、植松香穂選手（文4）、山田加奈選手（商4）、瀧本日向子選手（商3）、高橋茜選手（商2）の

四選手が出場。二十八日に行われた決勝では序盤からのリードを保って、二位に3秒差をつけてゴール。二〇一四年以来、三年ぶりに同種目での優勝を果たした。

「男子エイト」には、「明治大学A」チームとして大久保亮主将（農4）、原勇二選手（法4）、川野陽平選手（政経4）、河井京介選手（法4）、森猛選手（商4）、山吹啓太選手（経営4）、松木健汰郎選手（法3）、佐藤雅也選手（経営1）、鎌原康陽選手（法1）の九選手が出場。二十八日の準決勝A組を一位で通過し出場した決勝では、序盤から二番手以下のチームとのリードを徐々に広げる力強いレース運びで優勝を決めた。

### ● 馬術部 中村主将が初優勝

#### 全日本ヤング総合馬術大会で

ヤングライダー（十六歳～二十二歳）の総合馬術日本一を決める「第三十八回全日本ヤング総合馬術大会二〇一七」が五月二十六日～二十八日、山梨県馬術競技場で開催され、体育会馬術部の中村幸喜主将（農4）と明鳳のコンビが初優勝を果たした。

総合馬術は、馬場馬術・クロスカントリー・障害馬術の三種目を三日間で行い、三種目の合計減点が少ない人馬が上位となる競技。中村主将と明鳳は、初日の馬場馬術を減点四八・五でトップに立つと、二日目のクロ

スカントリーを減点ゼロ、三日目の障害馬術も減点ゼロでクリアし、一度もトップを譲ることなく総減点四八・五で優勝を決めた。

中村主将と明鳳のコンビは同大会に三年連続の出場。二〇一五年・一六年と二年続けて僅差の二位で優勝を逃したが、出場可能な最終年となる今年の大会で見事初優勝を果たした。

なお、本大会では富永弥玖選手（商3）とブライムローズMのコンビも三位に入賞している。

●競走部

全日本大学駅伝への出場権を獲得

十一月五日に開催される全日本大学駅伝対校選手権大会（全日本大学駅伝）の関東地区選考会「第四十九回全日本大学駅伝関東学連推薦校選考会」が六月十八日、駒場運動公園競技場（埼玉県さいたま市）で行われ、競走部は総合タイム3時間58分40秒53の七位で、全日本大学駅伝への出場権を獲得した。

選考会には関東地方の大学二十校が出場。一校八人の選手が四組に分かれて一万メートルを走り、八選手の合計タイム上位九校に全日本大学駅伝本選への出場権が与えられる。

競走部は、坂口裕之選手（政経3）が日本人選手としてはトップ、全体でも三番手のタイムを記録するなどチームの記録を底上げ

し、総合七位の成績で本大会への出場を決めた。

◆五月総会出席者

相澤淳一、青木幹則、青柳勝榮、秋山隆敬、坪昭二、浅井宏、浅倉晴司、安達明正、阿部倫明、新井久晴、有賀隆治、石川かおり、石原道勝、伊東正博、伊原敏雄、岩田守弘、植木榮、上西紘治、宇川一夫、宇敷和章、大石哲也、大野正美、大原幸男、大村託現、大山卓良、尾暮敏範、鬼塚和也、笠井正弘、勝俣正義、栢森靖、荻部彰夫、河村博、神林光、草木頼幸、小島清治、小山修、小山有彦、根田哲雄、根田吉雄、斎藤柳光、坂田英夫、桜井保彦、笹田学、佐藤和正、佐藤健、佐野公哉、佐野径、志田憲彦、杉浦伸二、鈴木紘一、鈴木隆志、関孝夫、関根均、瀬戸正道、高澤徹、高橋郁夫、武内裕、竹下衛司、武田宣夫、田代恭一、田中孝明、田村駿、常泉邦彦、天童美徳、当山明彦、徳丸平太郎、富水流孝二、中川敏洋、中根武、長堀守弘、並木洋一、西澤豊、二宮充子、野口昌宏、長谷川進一、畠中君代、羽生健一郎、馬場範夫、藤巻伴英、前川一郎、松崎優子、摩尼和夫、宮下隆、宮本浩二、向井眞一、村岡健、室井恵明、柳谷孝、山上雅隆、山口大介、山口政廣、山田憲典、山田朝彦、山田勝、山田幸夫、弓野理恵、渡邊洋三

【編集後記】

暑さも厳しくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

広報委員会のメンバーになり初めての編集後記ということで、体育会ラグビー部出身ということもあり、ラグビーについて少し述べさせていたきたいと思えます。

ラグビーの起源は、一八二三年にイングランドでのサッカーの試合中、一人の少年がボールを手に持ち走り出したこととされています。

そんなラグビーの魅力は、背の高い人や低い人、体重の重い人、足の速い人、キックの上手な人、それぞれの個性を活かし活躍することができるスポーツということ。また、ノーサイドの精神も忘れてはならない魅力の一つです。試合中、乱闘になった相手さえ、試合が終われば遺恨なく、笑顔でお互いの健闘を称えあう。ラグビーは、相手を尊重し、敬意を払い、思いやる心を大切に行っています。

スポーツの世界大会といえばオリンピック、サッカーワールドカップが有名ですが、二〇一九年に日本で開催されるラグビーワールドカップも、世界三大スポーツイベントとして知られています。日本ではまだまだメジャーなスポーツになりつつありませんが、ラグビーを愛する者としては、各会場が満員になり、日本中がラグビーに酔いしれ、大成功で終わることを祈るばかりです。もちろん、大会の成功には日本代表の躍進も欠かせません。日本のラグビー史上初の決勝トーナメント進出を、ホーム開催で是非実現して欲しいものです。

今年九月からは、我が明大ラグビー部の対抗戦も始まります。一九九六年から遠ざかっている大学選手権優勝に思いを馳せ、今年も母校の応援を楽しみたいと思う今日この頃です。

（山口 大介）